

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス									
---------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

科目名 (英)	解剖学Ⅱ (AnatomyⅡ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	糟谷 圭吾
学科	柔道整復科	授業 形態	講義	総時間	45	開講区分	Ⅰ学期
コース	Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(3)	曜日・時限	月・水・土曜日 Ⅰ・4限

【授業の学習内容】
 柔道整復学の基礎となる人体の生命現象と正常機能をおこなうにあたって必要とされる人体の正常な構造の理解は疾患の治療の上で必要不可欠である。特に神経系、内分泌系、呼吸、循環、消化、吸収、栄養と代謝、排尿、感覚器等の生命維持に不可欠な機能がいかなる構造によって可能となっているかの概念を習得し、本授業終了時には人体の正常な構造について説明ができるようになる。
 ※実務者経験
 1994～1996年 歯科医療研修振興財団 臨床研修課程を修める。1996年～歯科医師として臨床業務に従事。1998～2000年 歯学部付属病院に所属する。主業務として中央手術室における全身麻酔管理および外来病棟（有病者歯科）における全身管理業務に従事。

【到達目標】
人体解剖学の基本的体系を習得し、人体の正常構造について習得する。進化や発生の過程で人体が形成されたことを説明できる。神経系、内分泌系、呼吸、循環、消化、吸収、栄養と代謝、排尿、感覚器等の各種機能をおこなうにあたっての人体の構造を体系的に説明できる。

授業計画・内容

1回目	神経系の区分と特徴、神経組織、灰白質、白質、神経節、核、根
2回目	中枢神経の区分、脳室系、髄膜と脳脊髄液
3回目	脳 各部の形態と機能
4回目	脊髄の区分と伝導路
5回目	脳神経 ① I～VI
6回目	脳神経 ② VII～XII
7回目	脊髄神経 ① 頸神経叢
8回目	脊髄神経 ② 腕神経叢 ①
9回目	脊髄神経 ③ 腕神経叢 ②
10回目	脊髄神経 ④ 腰神経叢
11回目	脊髄神経 ⑤ 仙骨神経叢
12回目	脊髄神経 ⑥ 陰部神経叢 尾骨神経 デルマトーム
13回目	自律神経系① 交感神経系
14回目	自律神経系② 副交感神経系
15回目	自律神経系③ 関連痛 神経系 総合演習
準備学習 時間外学習	前もって講義範囲の教科書本文を熟読し疑問点を明確にする。講義および配付資料を補足・充実させ、知識の整理をすること。学習内容に関して不明な点あるいは疑問点があれば、担当教員に質問し、補って下さい。

評価方法	定期試験(100%) 評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	定期試験(100%)にて到達度を評価する。
受講生へのメッセージ	正常な人体の構造を学ぶ解剖学は柔道整復師として必須項目である。臨床の場面で不可欠の知識となるため、十分な理解が望まれる。当該範囲は複雑多岐にわたるが、着実に学習して欲しい。毎回の講義が膨大のものとなるため予習、復習は必須条件である。また、体調管理には十分留意し、くれぐれも欠席をしない様にして下さい	

【使用教科書・教材・参考書】
教科書：全国柔道整復学校協会監修 岸 清・石塚 寛編「解剖学」医歯薬出版
F.H. マティニー・M.J. ティモンズ・M.P. マッキンリ著 井上貴史監訳「カラー人体解剖学」西村書店

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス							
科目名 (英)	解剖学Ⅱ (AnatomyⅡ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	糟谷 圭吾
学科	柔道整復科	授業 形態	講義	総時間	45	開講区分	2学期
コース	I部・Ⅱ部			(単位)	(3)	曜日・時限	月・水・土曜日 1・4限
【授業の学習内容】 柔道整復学の基礎となる人体の生命現象と正常機能をおこなうにあたって必要とされる人体の正常な構造の理解は疾患の治療の上で必要不可欠である。特に神経系、内分泌系、呼吸、循環、消化、吸収、栄養と代謝、排尿、感覚器等の生命維持に不可欠な機能がいかなる構造によって可能となっているかの概念を習得し、本授業終了時には人体の正常な構造について説明ができるようになる。 ※実務者経験 1994～1996年 歯科医療研修振興財団 臨床研修課程を修める。1996年～歯科医師として臨床業務に従事。1998～2000年 歯学部付属病院に所属する。主業務として中央手術室における全身麻酔管理および外来病棟(有病者歯科)における全身管理業務に従事。							
【到達目標】 人体解剖学の基本的体系を習得し、人体の正常構造について習得する。進化や発生の過程で人体が形成されたことを説明できる。神経系、内分泌系、呼吸、循環、消化、吸収、栄養と代謝、排尿、感覚器等の各種機能をおこなうにあたっての人体の構造を体系的に説明できる。							
授業計画・内容							
1回目	感覚器 外皮 表皮、真皮、皮下組織、皮膚に付属する角質器						
2回目	皮膚腺、皮膚のまとめ 筋紡錘、腱紡錘、関節						
3回目	視覚器 眼球の構造、光受容器と網膜、視覚路						
4回目	眼瞼、涙器、眼筋 聴覚器 外耳、中耳、内耳						
5回目	平衡器 平衡覚路と聴覚路および平衡覚中枢と聴覚中枢						
6回目	味覚器 味蕾 味覚神経						
7回目	嗅覚器 嗅粘膜 嗅球、嗅索						
8回目	嗅覚中枢 感覚器のまとめ 総合演習						
9回目							
10回目							
11回目							
12回目							
13回目							
14回目							
15回目							
準備学習 時間外学習	前もって講義範囲の教科書本文を熟読し疑問点を明確にする。講義および配付資料を補足・充実させ、知識の整理をすること。学習内容に関して不明な点あるいは疑問点があれば、担当教員に質問し、補って下さい。						
評価方法	定期試験(100%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	定期試験(100%)にて到達度を評価する。				
受講生への メッセージ	正常な人体の構造を学ぶ解剖学は柔道整復師として必須項目である。臨床の場面で不可欠の知識となるため、十分な理解が望まれる。当該範囲は複雑多岐にわたるが、着実に学習して欲しい。毎回の講義が膨大のものとなるため予習、復習は必須条件である。また、体調管理には十分留意し、くれぐれも欠席をしない様にして下さい						
【使用教科書・教材・参考書】 教科書：全国柔道整復学校協会監修 岸 清・石塚 寛編 「解剖学」医歯薬出版 F.H.マティーニ・M.J.ティモンズ・M.P.マッキンリ著 井上貴央監訳 「カラー人体解剖学」西村書店							

教科書：全国柔道整復学校協会監修 岸 清・石塚 寛編「解剖学」医歯薬出版
F.H. マティーニ・M.J. ティモンズ・M.P. マッキンリ著 井上貴央監訳「カラー人体解剖学」西村書店

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス							
科目名 (英)	生理学Ⅲ (Physiology Ⅲ)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	糟谷圭吾
学科	柔道整復科	授業形態	講義	総時間	60	開講区分	Ⅰ学期
コース	Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(4)	曜日・時限	月・水・土曜日 Ⅰ・4限
【授業の学習内容】 柔道整復学の基礎となる人体の生命現象と正常機能およびその体系の理解は疾患の治療の上で必要不可欠である。特に神経系、内分泌系による調節機構（ホメオスタシス）、呼吸、循環、消化、吸収、栄養と代謝、排泄、感覚器等の生命維持に不可欠な機能についての概念を習得し、本授業終了時には各々の生理学的機能について説明ができるようになる。 ※実務者経験 1994～1996年 歯科医療研修振興財団 臨床研修課程を修める。1996年～歯科医師として臨床業務に従事。1998～2000年 歯学部付属病院に所属する。主業務として中央手術室における全身麻酔管理および外来病棟（有病者歯科）における全身管理業務に従事。							
【到達目標】 人体生理学の基本的体系を知り、人体の正常機能についての原則を習得する。進化や発生の過程で人体が形成されたことを説明 できる。神経系、内分泌系による調節機構（ホメオスタシス）、呼吸、循環、消化、吸収、栄養と代謝、排泄、感覚器等について網羅的に説明できる。							
授業計画・内容							
1回目	感覚の一般的な特性 感覚の分類 の内容を理解し説明できる。						
2回目	感覚受容器 適応刺激 感覚受容器の構造 感覚受容器の種類と受容のメカニズム の内容を理解し説明できる。						
3回目	感覚の順応 感覚器総論のまとめ の内容を理解し説明できる。						
4回目	特殊感覚 視覚① 視覚器の構造と機能 屈折異常と矯正 虹彩と瞳孔 の内容を理解し説明できる。						
5回目	視覚② 網膜 視覚伝道路 視力と視野 の内容を理解し説明できる。						
6回目	聴覚 音の特性 聴覚器官の構造 音の伝わり方 音源定位 の内容を理解し説明できる。						
7回目	平衡感覚 前庭器官の構造と働き 平衡感覚の伝道路 の内容を理解し説明できる。						
8回目	味覚および嗅覚 の内容を理解し説明できる。						
9回目	体性感覚 皮膚感覚と深部感覚 の内容を理解し説明できる。						
10回目	内臓感覚 臓器感覚 の内容を理解し説明できる。						
11回目	痛覚 原因による痛みの分類 の内容を理解し説明できる。						
12回目	発生部位による痛みの分類 の内容を理解し説明できる。						
13回目	発痛物質 の内容を理解し説明できる。						
14回目	痛みの伝道路 疼痛の抑制システム の内容を理解し説明できる。						
15回目	感覚の生理学の総まとめ 国家試験演習						
準備学習 時間外学習	(目標①) 前提:この授業を受けるには、生理学的知識の羅列の暗記のみならず、当該学習項目についての深い考察が必要である。 (目標②) 当該学習項目と関連する解剖学、運動学等の関連領域についての理解を深める。 (目標③) 当該学習項目に関する領域の国家試験問題について正答を得ることができる。						
評価方法	1. 定期試験(100%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F(不合格)					
受講生へのメッセージ	正常な人体の機能、機序を学ぶ生理学は柔道整復師として必須項目である。臨床の場面で不可欠の知識となるため、十分な理解が望まれる。当該範囲は複雑多岐にわたるが、着実に学習していった欲しい。毎回の講義が膨大のものとなるため予習、復習は必須条件である。また、体調管理には十分留意し、くれぐれも欠席をしない様にして下さい。						
【使用教科書・教材・参考書】「生理学」第4版 全国柔道整復学校協会監修 南光堂							

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス							
科目名 (英)	生理学Ⅲ (Physiology Ⅲ)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	糟谷圭吾
学科	柔道整復科	授業形態	講義	総時間	60	開講区分	2学期
コース	I 部・II 部			(単位)	(4)	曜日・時限	月・水・土曜日 1・4限
【授業の学習内容】 柔道整復学の基礎となる人体の生命現象と正常機能およびその体系の理解は疾患の治療の上で必要不可欠である。特に 神経系、内分泌系による調節機構（ホメオスタシス）、呼吸、循環、消化、吸収、栄養と代謝、排尿、感覚器等の生命維持に不可欠な機能についての概念を習得し、本授業終了時には各々の生理学的機能について説明ができるようになる。 ※実務者経験 1994～1996年 歯科医療研修振興財団 臨床研修課程を修める。1996年～歯科医師として臨床業務に従事。1998～2000年 歯学部付属病院に所属する。主業務として中央手術室における全身麻酔管理および外来病棟（有病者歯科）における全身管理業務に従事。							
【到達目標】 人体生理学の基本的体系を知り、人体の正常機能についての原則を習得する。進化や発生の過程で人体が形成されたことを説明できる。神経系、内分泌系による調節機構（ホメオスタシス）、呼吸、循環、消化、吸収、栄養と代謝、排尿、感覚等について網羅的に説明できる。							
授業計画・内容							
1回目	心臓の機能的解剖 の内容を理解し説明できる。						
2回目	心臓の電氣的活動 心電図 の内容を理解し説明できる。						
3回目	心臓の活動周期 の内容を理解し説明できる。						
4回目	血管① 弾性血管系、抵抗血管系 の内容を理解し説明できる。						
5回目	血管② 交換血管系、容量血管系 の内容を理解し説明できる。						
6回目	リンパ系 リンパ管の解剖 リンパの流れと役割 の内容を理解し説明できる。						
7回目	循環調節 動脈圧を決める因子 動脈圧の調節 の内容を理解し説明できる。						
8回目	呼吸器系の構造 肺、気道、胸郭 の内容を理解し説明できる。						
9回目	換気① 呼吸筋、換気のしくみ の内容を理解し説明できる。						
10回目	換気② 換気量と残気量 肺胞換気量と死腔 の内容を理解し説明できる。						
11回目	換気③ 呼吸筋の仕事量に影響を与える因子 の内容を理解し説明できる。						
12回目	ガス交換と運搬① 肺でのガス交換 の内容を理解し説明できる。						
13回目	ガス交換と運搬② 血液によるガス運搬 の内容を理解し説明できる。						
14回目	呼吸の神経支配経路						
15回目	化学受容器 呼吸の生理の総まとめ 国家試験問題演習						
準備学習 時間外学習	(目標①) 前提:この授業を受けるには、生理学的知識の羅列的暗記のみならず、当該学習項目についての深い考察が必要である。 (目標②) 当該学習項目と関連する解剖学、運動学等の関連領域についての理解を深める。 (目標③) 当該学習項目に関する領域の国家試験問題について正答を得ることができる。						
評価方法	1. 定期試験 (100%) 2. 小テスト (%) 3. レポート (%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格					
受講生へのメッセージ	正常な人体の機能、機序を学ぶ生理学は柔道整復師として必須項目である。臨床の場面で不可欠の知識となるため、十分な理解が望まれる。当該範囲は複雑多岐にわたるが、着実に学習していった欲しい。毎回の講義が膨大のものとなるため予習、復習は必須条件である。また、体調管理には十分留意し、くれぐれも欠席をしない様にして下さい。						
【使用教科書・教材・参考書】「生理学」 第4版 全国柔道整復学校協会監修 南光堂							

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス							
科目名	履修対象	単位数					

【授業の学習内容】
運動学ではヒトの身体運動の構造と機能を物理学等の原理を用いて系統的に学習する。その理解のためには骨学・筋学および関節靱帯学を含めた運動器系とこれを支配する神経系および外界の情報入力に関わる感覚器系の構造と機能を理解する必要がある。本講義では神経系と感覚器系の構造と機能を運動器系と合わせて学習し、総合的に運動についての理解を深める。
※実務者経験
1994～1996年 歯科医療研修振興財団 臨床研修課程を修める。1996年～歯科医師として臨床業務に従事。1998～2000年 歯学部付属病院に所属する。主業務として中央手術室における全身麻酔管理および外来病棟（有病者歯科）における 全身管理業務に従事。

到達目標】
人間の運動に関わる正常な構造と機能について理解を深める。 1. 運動機能の障害による異常運動を運動分析にもとづいて評価できる。 2. 主要な関節の運動形態と神経系の作用について説明できる。

授業計画・内容

1回目	運動学の目的、運動の表し方	16回目	乳幼児期の運動発達①
2回目	身体運動に関する力の概念	17回目	乳幼児期の運動発達②
3回目	仕事と力学的エネルギー	18回目	運動学習 運動機能と運動能力
4回目	骨、関節、骨格筋の構造と機能	19回目	運動技能学習の過程 学習曲線
5回目	神経細胞 末梢神経と中枢神経系	20回目	運動器(8章)の概説
6回目	運動感覚と運動の制御機構	21回目	国家試験対策演習① 柔道整復師国家試験 21回から33回
7回目	反射の種類と中枢の部位別分類	22回目	国家試験対策演習② 柔道整復師国家試験 11回から20回
8回目	各種の反射(脊髄、脳幹、大脳皮質)	23回目	運動学の総まとめと補足 定期試験対策
9回目	前半範囲のまとめ 国家試験問題演習		
10回目	連合運動と共同運動		
11回目	姿勢の分類、重心、立位姿勢と制御		
12回目	機能肢位と姿勢のまとめ		
13回目	歩行周期、歩行の運動学的分析		
14回目	歩行と筋活動、エネルギー代謝		
15回目	異常歩行、神経組織の成熟		

前もって講義範囲の教科書本文を熟読し疑問点を明確にする。講義および配付資料を補足・充実させ、知識の整理をすること。学習内容に関して不明点あるいは疑問点があれば、担当教員に質問し、補って下さい。

評価方法	定期試験(100%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	定期試験(100%)にて到達度を評価する。
------	------------	--	-----------------------

正常な人体の運動に関わる構造・機能を追求する運動学は、柔道整復師としての臨床の場面で、運動機能の障害による異常運動を分析し、評価する際、不可欠の知識となるため、十分な理解が望まれる。毎回の講義が膨大の席となるため予習、復習は必須条件である。また、体調管理には十分留意し、くれぐれも欠席しない様にして下さい

【使用教科書・教材・参考書】
教科書：全国柔道整復学校協会監修「運動学」第3版 医歯薬出版

教科書：全国柔道整復学校協会監修「運動学」第3版 医歯薬出版

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	高齢者・競技者の生理的特徴 (Senior citizens and Athlete's Physiological Features)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	糟谷圭吾
学科	柔道整復科	授業形態	講義	総時間	30	開講区分	3学期
コース	I部・II部			(単位)	(2)	曜日・時限	月・水・土曜日 2・3限
【授業の学習内容】							
柔道整復学の基礎となる人体の生命現象と正常機能およびその体系の理解は疾患の治療の上で必要不可欠である。 生理学Ⅰ、Ⅲに引き続き、特に高齢者の生理学的特徴・変化及び競技者の生理学的特徴・変化についての概念を習得し、本授業終了時には高齢者や競技者の生理学的機能について説明ができるようになる。 ※実務者経験 1994～1996年 歯科医療研修振興財団 臨床研修課程を修める。1996年～歯科医師として臨床業務に従事。1998～2000年 歯学部付属病院に所属する。主業務として中央手術室における全身麻酔管理および外来病棟(有病者歯科)における全身管理業務に従事。							
【到達目標】							
人体生理学の基本的体系を知り人体の正常機能についての原則を習得する。特に現代の高齢社会における高齢者の生理学的特徴・変化について具体的に説明できる。スポーツ人口が増加している中で、競技者の生理学的特徴・変化について具体的に説明できる。							
授業計画・内容							
1回目	細胞・組織の加齢現象 細胞の老化 について理解し説明できる						
2回目	生体膜および細胞内小器官の変化 について理解し説明できる						
3回目	生体内水分量の変化と加齢 について理解し説明できる						
4回目	加齢による臓器機能の変化 神経系、運動器系、感覚器系、循環器系、呼吸器系、消化器系、皮膚 について理解し説明できる						
5回目	高齢期特有の疾患・障害 について理解し説明できる						
6回目	運動と加齢 歩行機能 について理解し説明できる						
7回目	平衡機能 反応時間 について理解し説明できる						
8回目	運動と身体発達 小児期から青年期の発育特性 について理解し説明できる						
9回目	小児期から青年期の骨・筋肉系の発育と運動 について理解し説明できる						
10回目	小児期から青年期の呼吸循環系機能と運動 について理解し説明できる						
11回目	発育期の運動不足・過運動の影響 運動の習熟 について理解し説明できる						
12回目	競技者の生理的特徴 スポーツおよびトレーニングによる適応 競技者の神経機構の特性 について理解し説明できる						
13回目	姿勢調節 眼球運動と姿勢制御 について理解し説明できる						
14回目	高齢者の生理学的特徴範囲の総合演習						
15回目	競技者の生理学的特徴範囲の総合演習 定期試験範囲のまとめ						
準備学習 時間外学習	(目標①) 前提:この授業を受けるには既習の生理学の知識が必須であり講義と関連する事項の予習・復習が必要である。 (目標②) 当該学習項目と関連する解剖学、運動学等の関連領域についての理解を深める。 (目標③) 当該学習項目に関する領域の国家試験問題について正答を得ることができる。						
評価方法	1.定期試験(100%) 2.小テスト(%) 3.レポート(%) 4.課題成果(%) 5.実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格					
受講生へのメッセージ	正常な人体の機能、機序を学ぶ生理学は柔道整復師として必須項目である。臨床の場面で不可欠の知識となるため、十分な理解が望まれる。生理学Ⅰに引き続き、今後ますます増加する高齢者および競技者の生理学的特徴・変化を学習して欲しい。毎回の講義において生理学Ⅰの内容が前提になるため予習、復習は必須条件である。また、体調管理には十分留意し、くれぐれも欠席をしない様にして下さい。						
【使用教科書・教材・参考書】「生理学」第4版 全国柔道整復学校協会監修 南光堂							

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	病理学 I (Pathology)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	蒲 貞行
学科	柔整	授業 形態	講義	総時間 (単位)	45 (3)	開講区分	2学期
コース	I 部・II 部					曜日・時限	火曜日 2・3限

【授業の学習内容】

担当教員は、臨床検査技師資格(1970年)、日本臨床細胞学会認定の細胞検査士資格、博士(保健学)の称号を持ち、日本臨床細胞学会技師賞の受賞歴がある。

1970年に愛知県対がん協会に入職後、愛知県がんセンター病院～愛知県総合保健センター臨床検査部で病理学、細胞診、血液学、生化学、生理学などの検査に従事した。2004～2015年に群馬大学大学院保健学研究科(准教授)で病理学、細胞診断学の講義と実習、細胞検査士の育成に従事した。その後群馬パース大学と中部大学の客員教授としての教鞭をとった。

病理学概論の講義は前橋東洋医学専門学校(2006～2014年)、2015年より本学で担当している。

病理学は医学の基礎を成す学問であり、その内容は深く広範である。担当教員の上記経験を踏まえ、医療人として修得が望まれる病理学的知識を教授する。授業内容は、国家試験に十分対応できる理解力の養成を主眼として教授する。

【到達目標】 医療人を志す者にとって、病理学は基本的な学問であり教養科目である。

病理学概論では、広く疾病の分類と定義、原因と成り立ち、発生頻度、症状、死など様々な疾病の理解を深める。病理学概論で学ぶ知識は、国家試験での他の学科(一般臨床医学など)でも頻出されており、解剖学、生理学などと共に横断的な理解に役立つよう努める。

授業計画・内容			
1回目	【第1章】病理学とは(1) [病理学の意義、観察法、など]		
2回目	【第2章】疾病の一般[自覚～他覚症状、などを修得する]～【第3章】細胞障害[退行性病変](1)[萎縮、などを修得する]		
3回目	細胞障害[退行性病変](2) [細胞質・細胞間質の変性、などを修得する]		
4回目	細胞障害[退行性病変](3) [代謝異常(痛風・糖尿病・老化・壊死・アポトーシス)、などを修得する]		
5回目	細胞障害[退行性病変](4) [黄疸・Rh血液型不適合妊娠、などを修得する]		
6回目	【第4章】循環障害(1) [充血、うっ血のいろいろ、などを修得する]		
7回目	循環障害(2) [血栓と塞栓、門脈圧亢進症、などを修得する]		
8回目	循環障害(3) [浮腫、脱水、熱中症、高血圧症、などを修得する]		
9回目	【1～4章中間試験】		
10回目	【中間試験解説】～【第5章】進行性病変(1) [肥大と過形成、再生、化生、などを修得する]		
11回目	進行性病変(2) [創傷治癒、骨折の治癒、異物処理、移植、などを修得する]		
12回目	【第6章】炎症(1) [炎症の5主徴、などを修得する]		
13回目	炎症(2) [炎症のメカニズム、などを修得する]		
14回目	炎症(3) [炎症の種類、などを修得する]		
15回目	炎症(4) [結核症、ツベルクリン反応、などを修得する]		
16回目	【第7章】免疫とアレルギー(1) [細胞性免疫・液性免疫、などを修得する]		
17回目	免疫とアレルギー(3) [免疫不全、自己免疫疾患(特にリウマチ、膠原病)、などを修得する]		
18回目	免疫とアレルギー(3) [アレルギーの6分類、などを修得する]		
19回目	【第8章】腫瘍(1) [腫瘍の概念、癌腫と肉腫の相違点、主な腫瘍の例、などを修得する]		
20回目	腫瘍(2) [良性腫瘍と悪性腫瘍の特徴、などを修得する]		
21回目	腫瘍(3) [前癌病変、早期癌の定義、転移、TNM分類、ステージ、などを修得する]		
22回目	【第5～7章期末試験】		
23回目	【期末試験解説】～腫瘍(4)[腫瘍随伴症候群、などを修得する] ■9章～10章は3年次の前半に講義し、中間試験を行う。		
準備学習 時間外学習	担当教員による配布テキストは、国家試験に対応できる知識の理解に配慮して準備された内容となっている。事前にその資料の一読が望ましい。また、授業後には、授業で担当教員が強調した点を中心に要点を整理し、国家試験問題の解答を試みるのも理解の習得に効果的である。		
評価方法	【中間試験】:本試験(80点) +小テスト(20点) 【期末試験】本試験(80点) +小テスト(20点) 【総合評価】:中間と期末試験の平均点で評価する	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	当該期間に学んだ内容を国家試験レベルの問題として出題する。 各章の終了ごとに、確認小テストを実施する。 成績は、[中間試験と期末試験の得点率の平均点]を80%、確認小テストを20%の比率で評価する。試験はマークシート形式で行う。
受講生への メッセージ	人生、とくに医療人としての人生は生涯学びである。私は、受講生の皆さんが「人生、日々一切が生命現象の探究であり、そのことを通して人間性を磨くことである」との思いを持って教授する。ぜひ授業だけでなく、日常生活でのすべてに於いて、「いのちと人間の理解」につながる「学ぶ心」を身につけて頂きたい。病理学では、様々な分類が用いられているので、それぞれの疾病、用語の理解をしっかりと習得して頂きたい。		
【使用教科書・教材・参考書】			
病理学概論 (第3版) 医歯薬出版株式会社、担当教員による配布テキストおよび国家試験過去問集(Part 1&2)			

名古屋医健スポーツ専門学校 2024年度 シラバス							
科目名 (英)	一般臨床医学 (Medical Science Lectures)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	齋藤 研
学科	柔道整復科	授業形態	講義	総時間	45	開講区分	通年
コース	昼間Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(3)	曜日・時限	土曜日 2・3限
【授業の学習内容】 臨床の場で必要とされる、医療面接を含んだ診察の仕方についてトレーニングする。また、そこから得られる情報を的確に分析して、診断・診療に活かすことを旨とする。臓器別で系統的に疾患についての基本的知識を習得する。その上で症候学についても学習し、臨床症状から得られた情報をもとに鑑別疾患を挙げるなど、実際の診療に則した経験を積む。 ※実務者経験：1984年中学校・高等学校教員免許取得。1995年医師免許取得し内科医として勤務する。							
【到達目標】 的確な診察ができる。臨床症状から鑑別疾患を挙げることができる。重要疾患について、その概念・疫学・検査・治療などについて説明できる。							
授業計画・内容							
1回目	医療面接について理解し、習得できる。		16回目	神経診察について理解し、習得できる。			
2回目	診察の仕方について理解し、習得できる①		17回目	神経疾患について理解し、説明できる①			
3回目	診察の仕方について理解し、習得できる②		18回目	神経診察について理解し、説明できる②			
4回目	診察の仕方について理解し、習得できる③		19回目	血液疾患・腎疾患について理解し、説明できる			
5回目	検査・診断について理解し、習得できる		20回目	膠原病について理解し、説明できる			
6回目	呼吸器疾患について理解し、説明できる①		21回目	免疫疾患・感染症について理解し、説明できる			
7回目	呼吸器疾患について理解し、説明できる②		22回目	症候論について理解し、説明できる			
8回目	循環器疾患について理解し、説明できる①		23回目	総復習を行い、16～23回までの授業内容を説明できる			
9回目	循環器疾患について理解し、説明できる②						
10回目	消化器疾患について理解し、説明できる①						
11回目	消化器疾患について理解し、説明できる②						
12回目	内分泌・代謝疾患について理解し、説明できる①						
13回目	内分泌・代謝疾患について理解し、説明できる②						
14回目	総復習を行い、1～13回までの授業内容について説明できる						
15回目	総復習を行い、1～13回までの授業内容について前回よりも詳しく説明できる						
準備学習 時間外学習	1年次で学んだ解剖学や生理学といった基礎医学の復習が必須です。授業時間外で各自与えられた課題をこなすための時間を確保する必要があります。各疾患について重要事項を各自ノートにまとめるといった学習法を推奨します。						
評価方法	定期試験：90% 課題成果：10%	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F(不合格)					
受講生へのメッセージ	臨床医学の内容は多岐にわたるため、限られた授業時間数で習得するにはコツが必要です。まずは系統的に理解する、その上で記憶に残りやすい工夫をする(要点をまとめる、暗記しやすい覚え方を身につける)ことです。授業内に学習法についても指導していきたいと思います。						
【使用教科書・教材・参考書】 教科書：医歯薬出版株式会社「一般臨床医学」改訂第3版							

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	外科学概論 (Surgery)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	小島 敦
学科	柔道整復科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	45 (3)	開講区分	2学期
コース	I 部・II 部					曜日・時限	金曜日 152教室
【授業の学習内容】							
外科学の概要を学び、医学における外科学の内容について理解を深めます。講義方法は、柔道整復師国家試験における外科学概論部分からの出題と教科書の内容を照らし合わせ、内容の理解と正答ができることを目指します。							
【到達目標】							
① 外科的治療・基本的臨床手技・手術・麻酔に関する知識を得る。 ② 外科で扱う各種疾患、外傷について説明できる。 ③ ショックおよびその際の心肺蘇生法を説明できるとともに、実施することができる。 ④ 輸液・輸血の基本や消毒法および滅菌法について説明できる。 ⑤ 手術・麻酔・止血・移植など周術における知識および注意点を説明できる。							

授業計画・内容			
1回目	外科学概論構成の把握。 <u>＋損傷の分類まで</u>		
2回目	損傷について理解し説明することができる。		
3回目	炎症と外科感染症について理解し説明することができる。 <u>破傷風まで</u>		
4回目	腫瘍について理解し説明することができる。 <u>ガス壊疽から</u>		
5回目	ショックについて理解し説明することができる。		
6回目	輸血、輸液について理解し説明することができる。		
7回目	消毒法、滅菌法について理解し説明することができる。		
8回目	手術について理解し説明することができる。		
9回目	麻酔について理解し説明することができる。 <u>国試問題の前まで</u>		
10回目	移植と免疫について理解し説明することができる。 <u>麻酔国試問題から</u>		
11回目	出血、止血について理解し説明することができる。 <u>国試問題の前まで</u>		
12回目	心肺蘇生法について理解し説明することができる。 <u>出血と止血国試問題から</u>		
13回目	外科学総論 中間試験		
14回目	外科学総論 中間試験の解説		
15回目	脳神経外科疾患について理解し説明することができる。(前半) <u>脳外科疾患</u>		
16回目	脳神経外科疾患について理解し説明することができる。(後半) <u>脳外科外傷</u>		
17回目	甲状腺・頸部・胸壁・呼吸器疾患について理解し説明することができる。		
18回目	心臓・脈管疾患について理解し説明することができる。 <u>解離性大動脈瘤まで</u>		
19回目	乳腺疾患について理解し説明することができる。 <u>ASO・TAOから</u>		
20回目	腹部外科疾患について理解し説明することができる。(前半) <u>大腸疾患まで</u>		
21回目	腹部外科疾患について理解し説明することができる。(後半) <u>肝胆膵疾患から</u>		
22回目	外科学概論 試験		
23回目	外科学概論 試験の解説		
準備学習 時間外学習	本講義においては、柔道整復師国家試験の内容を解説することとなります。そのため、その基礎となる生理学・解剖学・病理学・一般臨床医学分野の国家試験問題を理解するようにしてください。		
評価方法	1. 定期試験(100%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	定期テストにて知識・技能の到達評価を行う。 中間試験30% 定期試験70%
受講生への メッセージ	外科学は、解剖学、生理学などの基礎科目の知識を必要とします。それらを理解した上で授業を受けると、より解りやすいため、基礎科目の復習が必要です。		
【使用教科書・教材・参考書】			
1. 南江堂「外科学概論」改訂第4版 2. 医道の日本社「国家試験過去問題集 柔道整復師用」			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	整形外科学 (Orthopedic Surgery)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	山田 慎
学科	柔道整復科	授業形態	講義	総時間	45	開講区分	通年
コース	I 部・II 部			(単位)	(3)	曜日・時限	土曜日 1～4限

【授業の学習内容】

運動器の正常な機能を学び、病的状態を知ることによって柔道整復師として適切に判断・治療できることを目指す。臨床現場の実際も交えながら進行する。
※実務経験：2003年5月～沖縄県立中部病院、2008年4月国立久米島病院、2010年4月亀田総合病院勤務。

【到達目標】

- ①運動器の基礎、診察法、検査法について理解し、説明できる。
- ②整形外科的治療法に関して理解し、説明できる
- ③骨・関節疾患の病態・特徴について理解し説明できる。
- ④スポーツ整形疾患について、理解し説明できる
- ⑤リハビリテーションについて理解し説明できる。

授業計画・内容

1回目	総論5(骨・関節損傷総論) + 各論骨盤・股関節C-1 について理解し説明できる ①
2回目	総論5(骨・関節損傷総論) + 各論骨盤・股関節C-1 について理解し説明できる ②
3回目	総論1(運動器の基礎知識)+各論体幹A-1(頸部) について理解し説明できる ①
4回目	総論1(運動器の基礎知識)+各論体幹A-1(頸部) について理解し説明できる ②
5回目	総論2(整形外科診察法)+各論体幹A-2(胸部) について理解し説明できる ①
6回目	総論2(整形外科診察法)+各論体幹A-2(胸部) について理解し説明できる ②
7回目	各論前腕・肘関節B-2、手関節B-4 について理解し説明できる ①
8回目	各論前腕・肘関節B-2、手関節B-4 について理解し説明できる ②
9回目	各論大腿・膝関節C-2 について理解し説明できる ①
10回目	各論大腿・膝関節C-2 について理解し説明できる ②
11回目	総論3(整形外科検査法)+各論体幹A-3(腰部) について理解し説明できる ①
12回目	総論3(整形外科検査法)+各論体幹A-3(腰部) について理解し説明できる ②
13回目	総論6.7(スポーツ整形外科総論+リハビリテーション総論) + 各論C-3下腿・足関節 C-4足・足趾 について理解し説明できる
14回目	総論6.7(スポーツ整形外科総論+リハビリテーション総論) + 各論C-3下腿・足関節 C-4足・足趾 について理解し説明できる
15回目	8 疾患別各論 E-G について理解し説明できる ①
16回目	8 疾患別各論 E-G について理解し説明できる ②
17回目	8 疾患別各論 A-D について理解し説明できる ①
18回目	8 疾患別各論 A-D について理解し説明できる ②
19回目	総論4(整形外科的治療法)+各論前腕B-3 について理解し説明できる ①
20回目	総論4(整形外科的治療法)+各論前腕B-3 について理解し説明できる ②
21回目	各論肩・肩甲骨B-1、手・手指B-5 について理解し説明できる①
22回目	各論肩・肩甲骨B-1、手・手指B-5 について理解し説明できる②
23回目	総復習を行い知識を修得することができる

準備学習 時間外学習	教科書と学習する範囲の国家試験問題を確認する		
評価方法	1. 定期試験 (%) 2. 小テスト (%) 3. レポート (%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	定期試験100%
受講生へのメッセージ	教科書に記載してあること以外に、現場での症例や、経験談など、現役の最前線で活躍するスポーツドクターの話をよく聞いてください。		

【使用教科書・教材・参考書】

整形外科学 改訂第4版(南江堂)、補足プリント

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	柔道整復の適応 (Judo Therapy Adaptaion)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	小島 敦
学科	柔道整復科	授業形態	講義	総時間	30	開講区分	3学期
コース	昼間Ⅰ・Ⅱ部			(単位)	(2)	曜日・時限	金曜日 152教室

【授業の学習内容】
柔道整復師の業務の中で診療にあたる症例は外傷とは限りません。外傷と疾患の鑑別、柔道整復術の適応となる外傷を学び、患者安全確保優先の能力を身に付けます。

【到達目標】
①患者安全確保を優先した臨床的判断を修得する。
②柔道整復術適応の判断ができる。
③外傷に類似した疾患について判断できる。

授業計画・内容			
1回目	柔道整復術の適否 損傷に類似した症状を示す疾患について理解し、説明できる		
2回目	血流障害・末梢神経損傷を伴う損傷について理解し、説明できる		
3回目	脱臼骨折・外出血を伴う損傷・病的骨折・脱臼について理解し、説明できる		
4回目	意識障害を伴う損傷、脊髄症状のある損傷(分類まで)について理解し、説明できる		
5回目	脊髄症状(頸髄損傷から)のある損傷 呼吸運動障害を伴う損傷について理解し、説明できる		
6回目	内臓損傷の合併が疑われる損傷 高エネルギー損傷について理解し、説明できる		
7回目	中間試験		
8回目	中間試験の解説		
9回目	医用画像を理解し、説明できる①		
10回目	医用画像を理解し、説明できる②		
11回目	一般臨床医学補講 血液・造血器疾患		
12回目	一般臨床医学補講 腎・尿路疾患①		
13回目	一般臨床医学補講 腎・尿路疾患②		
14回目	柔道整復の適応 試験		
15回目	柔道整復の適応 試験の解説 総合演習を行うことができる		
準備学習時間外学習	本講義においては、柔道整復で扱う外傷と類似する疾患との違いについて重点的に学びます。そのためには外傷だけでなく、疾患に対する知識を他分野から得ておく必要があります。		
評価方法	1. 定期試験(100%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	定期テストにて知識・技能の到達評価を行う。 中間試験30% 定期試験70%
受講生へのメッセージ	本講義で必要となる外傷と疾患の鑑別法は各論から学ぶより、症状から判断する臨床診断学を系統的に理解するように心がけてください。		
【使用教科書・教材・参考書】 教科書:南江堂「医療の中の柔道整復」 南江堂「施術の適応と医用画像の理解」			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	関係法規 (Regulation)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	嶋田 征矢
学科	柔道整復科	授業形態	講義	総時間	30	開講区分	I 学期
コース	昼間 I 部・II 部			(単位)	(2)	曜日・時限	金曜日 I・4限

【授業の学習内容】

「柔道整復師法」を中心に法律の基礎、他の医療従事者の資格法、医療法、社会福祉関係法規、社会保険関係法規を学び、理解し修得する。
※実務経験
平成28年～平成31年(令和元年)まで 整形外科、接骨院、介護施設に勤務。
柔道整復専科教員免許取得教員

【到達目標】

柔道整復師を業とするにあたり、免許に必要な要件や手続きを理解し適切に行うことができる。法令違反となることなく、柔道整復師として活動することができる。医療人として他の医療系職種の資格範囲、業務内容を理解することでチーム医療の場で円滑にコミュニケーションや協業ができるようになる。

授業計画・内容

1回目	法の体系、インフォームドコンセント、リスクマネジメントについて理解し、説明できる		
2回目	柔道整復師法の総則、免許について理解し、説明できる		
3回目	柔道整復師法の国家試験、業務について理解し、説明できる		
4回目	柔道整復師法の施術所、雑則について理解し、説明できる		
5回目	柔道整復師法の罰則、指定登録機関(指定試験機関)、附則について理解し、説明できる		
6回目	医療従事者の資格法について理解し説明できる①		
7回目	医療従事者の資格法について理解し説明できる②		
8回目	医療法について理解し、説明できる		
9回目	社会福祉関係法規について理解し、説明できる		
10回目	社会保険関係法規について理解し、説明できる		
11回目	その他の関係法規について理解し、説明できる		
12回目	柔道整復師法についてより知識を深め、修得する		
13回目	医療従事者の資格法、医療法についてより知識を深め、修得する		
14回目	社会福祉関係法規、社会保険関係法規、その他の関係法規についてより知識を深め、修得する		
15回目	柔道整復師法、他の医療従事者の資格法、医療法、社会福祉関係法規、社会保険関係法規について説明できる		
準備学習 時間外学習	①基礎的な法律などの情報は新聞やテレビなどでも発信されていますので、興味を持ちましょう。 ②授業で学んだことを忘れないように、復習は欠かせない事。 ③自分なりに分かりやすくノートまとめをすること。		
評価方法	1. 定期試験(100%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	筆記試験100%
受講生への メッセージ	将来、柔道整復師として業務するにあたり柔道整復師法を中心に、様々な法律に遵守しなければなりません。柔道整復師として働いていく中でも、国家試験でも重要な科目となってきます。授業だけではなく、自習をすることもお勧めします。		

【使用教科書・教材・参考書】

教科書: 医歯薬出版株式会社「関係法規」

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	柔道整復学Ⅳ (Judo TherapyⅣ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	小島 一政
学科	柔道整復科	授業 形態	講義	総時間	90	開講区分	Ⅰ学期
コース	Ⅰ部・Ⅱ部コース			(単位)	(3)	曜日・時限	木曜日 2・3限

【授業の学習内容】 柔道整復師が実際に触れる下肢外傷を理論的に学び、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わる者として高度の医学的知識の習得が必要であることから、業務として扱う下肢外傷について理論を理解し、本講義修了時には各下肢外傷について説明ができるようになる。 ※実務経験

柔道整復師が実際に触れる下肢外傷を理論的に学び、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わる者として高度の医学的知識の習得が必要であることから、業務として扱う下肢外傷について理論を理解し、本講義修了時には各下肢外傷について説明ができるようになる。

※実務経験

※実務経験

【到達目標】 柔道整復学で重要な下肢外傷の基本的な知識を修得するとともに、国家試験に必要な知識または臨床現場でも必要な知識を講義内に入れ、将来柔道整復師として業務するあたりその知識が発揮できるように習得させていく。 【具体的な目標】 ①下肢外傷の概要が説明できる。 ②下肢外傷の症状が説明できる ③下肢外傷の整復法・固定法が説明できる。
--

柔道整復学で重要な下肢外傷の基本的な知識を修得するとともに、国家試験に必要な知識または臨床現場でも必要な知識を講義内に入れ、将来柔道整復師として業務するあたりその知識が発揮できるように習得させていく。

【具体的な目標】 ① 下肢外傷の概要が説明できる。 ② 下肢外傷の症状が説明できる ③ 下肢外傷の整復法・固定法が説明できる。

- ①下肢外傷の概要が説明できる。
- ②下肢外傷の症状が説明できる
- ③下肢外傷の整復法・固定法が説明できる。

授業計画・内容

1回目	2年生の学習範囲、講義の流れ、骨盤部の機能解剖、骨盤骨骨折を理解説明できる。
2回目	大腿骨近位部の骨折について理解説明できる。
3回目	大腿骨近位部の骨折について理解説明できる。
4回目	大腿骨骨幹部部の骨折について理解説明できる。
5回目	大腿骨骨幹部部の骨折について理解説明できる。
6回目	大腿骨遠位部の骨折について理解説明できる。
7回目	大腿骨遠位部の骨折について理解説明できる。
8回目	膝蓋骨骨折について理解説明できる
9回目	中間試験
10回目	下腿骨近位部の骨折について理解説明できる
11回目	下腿骨近位部の骨折について理解説明できる
12回目	下腿骨骨幹部部の骨折について理解説明できる
13回目	下腿骨骨幹部部の骨折について理解説明できる
14回目	期末試験
15回目	学習した内容を総復習し、より深い理解を習得する。

準備学習 時間外学習	【予習】 事前に教科書を熟読し、わからない単語を調べておく。 【復習】 配布した復習問題や配布資料の内容をまとめ理解を深める。
---------------	---

評価方法	1. 定期試験 (100%) 2. 小テスト (50%) 3. レポート (%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	●小テスト (50%) + 定期試験50%で成績評価を行う。
------	--	---	--------------------------------

受講生への
メッセージ

柔道整復学は国家試験の中で最も出題数が多い科目で、臨床現場でも最も重要な科目となります。この科目が疎かになると今後の勉強等が大変困難となると思いますので、大変だと思いますがしっかり勉強していきましょう。

【使用教科書・教材・參考書】
教科書：柔道整復學理論編第7版（南江堂）、柔道整復學実技編第2版（南江堂） 配布資料

教科書：柔道整復学理論編第7版（南江堂）、柔道整復学実技編第2版（南江堂）
配布資料

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス							
科目名 (英)	柔道整復学Ⅳ (Judo TherapyⅣ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	小島 一政
学科	柔道整復科	授業 形態	講義	総時間	90	開講区分	2学期
コース	I 部・Ⅱ部コース			(単位)	(3)	曜日・時限	木曜日 2・3限
【授業の学習内容】							
柔道整復師が実際に触れる下肢外傷を理論的に学び、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わる者として高度の医学的知識の習得が必要であることから、業務として扱う下肢外傷について理論を理解し、本講義修了時には各下肢外傷について説明ができるようになる。 ※実務経験							
【到達目標】							
柔道整復学で重要な下肢外傷の基本的な知識を修得するとともに、国家試験に必要な知識または臨床現場でも必要な知識を講義内に入れ、将来柔道整復師として業務するあたりその知識が発揮できるように習得させていく。							
【具体的な目標】							
①下肢外傷の概要が説明できる。 ②下肢外傷の症状が説明できる ③下肢外傷の整復法・固定法が説明できる。							
授業計画・内容							
1回目	下腿骨遠位部骨折について理解説明できる						
2回目	下腿骨遠位部骨折について理解説明できる						
3回目	距骨骨折について理解説明できる						
4回目	距骨骨折について理解説明できる						
5回目	踵骨骨折について理解説明できる						
6回目	踵骨骨折について理解説明できる						
7回目	下肢骨折の固定法（実技）						
8回目	中間試験						
9回目	その他の足根骨骨折について理解説明できる						
10回目	中足骨骨折について理解説明できる						
11回目	中足骨骨折について理解説明できる						
12回目	足趾骨骨折日						
13回目	下肢骨折の固定法（実技）						
14回目	期末試験						
15回目	学習した内容を総復習し、より深い理解を習得する。						
準備学習 時間外学習	【予習】 事前に教科書を熟読し、わからない単語を調べておく。 【復習】 配布した復習問題や配布資料の内容をまとめ理解を深める。						
評価方法	1. 定期試験（100％） 2. 小テスト（50％） 3. レポート（％） 4. 課題成果（％） 5. 実地試験（％）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格		●小テスト（50％）＋定期試験50％で成績評価を行う。			
受講生への メッセージ	柔道整復学は国家試験の中で最も出題数が多い科目で、臨床現場でも最も重要な科目となります。この科目が疎かになると今後の勉強等が大変困難となると思いますので、大変だと思いますがしっかり勉強していきましょう。						
【使用教科書・教材・参考書】							
教科書：柔道整復学理論編第7版（南江堂）、柔道整復学実技編第2版（南江堂） 配布資料							

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	柔道整復学Ⅳ (Judo TherapyⅣ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	小島 一政
学科	柔道整復科	授業 形態	講義	総時間	90	開講区分	3学期
コース	I 部・II 部コース			(単位)	(3)	曜日・時限	木曜日 2・3限

【授業の学習内容】

柔道整復師が実際に触れる下肢外傷を理論的に学び、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わる者として高度の医学的知識の習得が必要であることから、業務として扱う下肢外傷について理論を理解し、本講義修了時には各下肢外傷について説明ができるようになる。

※実務経験

【到達目標】

柔道整復学で重要な下肢外傷の基本的な知識を修得するとともに、国家試験に必要な知識または臨床現場でも必要な知識を講義内に入れ、将来柔道整復師として業務するあたりその知識が発揮できるように習得させていく。

【具体的な目標】

- ①下肢外傷の概要が説明できる。
- ②下肢外傷の症状が説明できる
- ③下肢外傷の整復法・固定法が説明できる。

授業計画・内容

1回目	股関節脱臼について理解説明できる。
2回目	膝蓋骨脱臼について理解説明できる
3回目	膝蓋骨脱臼について理解説明できる
4回目	足関節脱臼について理解説明できる
5回目	足趾関節脱臼について理解説明できる。
6回目	中間試験
7回目	下肢関節脱臼の固定法(実技)
8回目	下肢関節脱臼の固定法(実技)
9回目	大腿部の軟部組織損傷について理解説明できる
10回目	膝関節部の軟部組織損傷について理解説明できる
11回目	膝関節部の軟部組織損傷について理解説明できる
12回目	膝関節部の軟部組織損傷について理解説明できる
13回目	膝関節部の軟部組織損傷について理解説明できる
14回目	期末試験
15回目	学習した内容を総復習し、より深い理解を習得する。

準備学習 時間外学習	【予習】 事前に教科書を熟読し、わからない単語を調べておく。 【復習】 配布した復習問題や配布資料の内容をまとめ理解を深める。
---------------	---

評価方法	1. 定期試験(100%) 2. 小テスト(50%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	●小テスト(50%)＋定期試験50%で成績評価を行う。
------	---	--	-----------------------------

受講生への メッセージ	柔道整復学は国家試験の中で最も出題数が多い科目で、臨床現場でも最も重要な科目となります。この科目が疎かになると今後の勉強等が大変困難となると思いますので、大変だと思いますがしっかり勉強していきましょう。
----------------	---

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:柔道整復学理論編第7版(南江堂)、柔道整復学実技編第2版(南江堂)
配布資料

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス							
科目名 (英)	外傷の保存療法 (Determination of Trauma)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	奥村 祐汰
学科	柔道整復科	授業形態	講義・演習	総時間	15	開講区分	2学期
コース	I部・II部			(単位)	(1)	曜日・時限	水曜日 1・4限
【授業の学習内容】 認定実技審査範囲の外傷・障害について学習する。 各外傷の模擬検査を行うにあたり、臨床に即した手順を踏んで模擬整復を行う。1、来院肢位の確認 2、発生機序の聴取 3、患部の確認 4、合併損傷の有無の確認 5、検査を実施 6、検査結果の評価 7、合併損傷の再確認授業ではそれぞれの外傷部位の局所解剖を確認し、どのような外力がどのように影響して、どのような外傷が発症するのかを考えながら模擬整復を行う。授業で行うのは模擬整復であるが、できる限り本物の外傷を扱っていることを考え、イメージしながら行うことが重要である。 ※実務経験 2014年～2020年まで接骨院と整形外科で勤務。(主業務は骨折・脱臼などの応急処置と後療法) 柔道整復科教員各2名(保健師)							
【到達目標】 ・外傷部位の局所解剖を理解する。 ・模擬整復終了までの手順を理解する。 ・患部の確認では正確な触診ができるようになる。 ・超音波エコーを用いて正確な評価ができるようになる。 ・模擬整復を行う際、患者への説明、助手への指示を行いながら整復操作に説明を加えながら整復出来るようになる。							
授業計画・内容							
1回目	上腕二頭筋長頭腱損傷 - 上腕二頭筋長頭腱損傷の診察の流れ、診察、検査法について理解して出来るようになる。①						
2回目	上腕二頭筋長頭腱損傷 - 上腕二頭筋長頭腱損傷の診察の流れ、診察、検査法について理解して出来るようになる。②						
3回目	上腕二頭筋長頭腱損傷の診察及び検査についてグループディスカッションをして理解を深める。						
4回目	大腿部四頭筋打撲 - 骨盤から大腿部の局所解剖、機能解剖を理解し、大腿四頭筋打撲を理解することが出来るようになる。						
5回目	大腿部四頭筋打撲 - 大腿四頭筋打撲の診察の流れ、診察、検査法について理解して出来るようになる。						
6回目	大腿部四頭筋打撲の診察及び検査についてグループディスカッションをして理解を深める。						
7回目	学期末試験①						
8回目	学期末試験②と解説						
準備学習 時間外学習	実技授業にてクラスメイトと模擬整復操作練習が出来るように、各外傷部位の局所解剖、整復理論をしっかり復習すること。(局所解剖や整復理論を文字で理解することも大切であるが、実技授業では立体的視覚的に把握することが重要である。局所解剖や整復操作を描写するなどしてイメージ化する努力をする。)						
評価方法	実地試験(100%) 出席・欠席数・授業態度を加味して評価する		評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F(不合格)				
受講生へのメッセージ	実技の授業は局所解剖を理解し、理論を理解して初めて出来るものである。基礎知識、理論の理解なしで実技を行うことは、一つのやり方をまるまる暗記することに過ぎない。各外傷の種々なケースにも対応していくためには局所解剖、柔整理論を理解し、考えながら実技を行う必要がある。常に本物の外傷を扱っているイメージで実技授業に臨んでもらいたい。						
【使用教科書・教材・参考書】 教科書：柔道整復理論、柔道整復実技及び配布資料							

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス							
科目名 (英)	臨床柔道整復学Ⅰ (Clinical Judo Therapy Ⅰ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	山口智一
学科	柔道整復科	授業 形態	講義	総時間	90	開講区分	Ⅰ学期
コース	Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(6)	曜日・時限	月・土 Ⅰ・4限
【授業の学習内容】 柔道整復師が実際に触れる上肢外傷を理論的に学び、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わる者として高度の医学的知識の習得が必要であることから、業務として扱う上肢外傷について理論を理解し、本講義修了時には各上肢外傷について説明ができるようになる。 ※実務経験 7年以上専門学校の教育現場に従事し、また接骨院の施術にも従事していた。							
【到達目標】 柔道整復学で重要な上肢外傷の基本的な知識を修得するとともに、国家試験に必要な知識または臨床現場でも必要な知識を講義内に入れ、将来柔道整復師として業務するあたりその知識が発揮できるように習得させていく。 【具体的な目標】 ①上肢外傷の概要が説明できる。 ②上肢外傷の内容の理解がさらに深められ習得できるようにする。							
授業計画・内容							
1回目	前腕部の解剖と機能について説明できる						
2回目	前腕部の解剖と機能について説明できる						
3回目	橈骨骨幹部骨折・ガレアジ骨折について説明できる						
4回目	尺骨骨幹部骨折・モンテギア骨折について説明できる						
5回目	モンテギア骨折・橈尺両骨骨幹部骨折について説明できる						
6回目	手関節部の解剖と機能について説明できる						
7回目	手関節部の解剖と機能について説明できる						
8回目	コーレス骨折について説明できる						
9回目	スミス骨折・バートン骨折について説明できる						
10回目	ショウファー骨折・橈骨遠位骨端線離開について説明できる						
11回目	舟状骨骨折について説明できる						
12回目	その他の手根骨骨折について説明できる						
13回目	総復習し、Ⅰ学期講義の総括について説明できる						
14回目	総復習し、Ⅰ学期講義の総括について説明できる						
15回目	総復習し、Ⅰ学期講義の総括について説明できる						
準備学習 時間外学習	【予習】 事前に教科書を熟読し、わからない単語を調べておく。 【復習】 配布した復習問題や配布資料の内容をまとめ理解を深める。						
評価方法	1. 定期試験100% 2. 小テスト% 3. レポート% 4. 課題成果% 5. 授業態度%		評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格				
受講生への メッセージ	柔道整復学は国家試験の中で最も出題数が多い科目で、臨床現場でも最も重要な科目となります。この科目が疎かになると今後の勉強等が大変困難となると思いますので、大変だと思いますがしっかり勉強していきましょう。						
【使用教科書・教材・参考書】 教科書：柔道整復学理論編改訂第7版（南江堂）、柔道整復学実技編第2版（南江堂） 配布資料							

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス							
科目名 (英)	臨床柔道整復学Ⅰ (Clinical Judo Therapy Ⅰ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	山口智一
学科	柔道整復科	授業 形態	講義	総時間	90	開講区分	2学期
コース	Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(6)	曜日・時限	月・土 1・4限
【授業の学習内容】 柔道整復師が実際に触れる上肢外傷を理論的に学び、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わる者として高度の医学的知識の習得が必要であることから、業務として扱う上肢外傷について理論を理解し、本講義修了時には各上肢外傷について説明ができるようになる。 ※実務経験 7年以上専門学校の教育現場に従事し、また接骨院の施術にも従事していた。							
【到達目標】 柔道整復学で重要な上肢外傷の基本的な知識を修得するとともに、国家試験に必要な知識または臨床現場でも必要な知識を講義内に入れ、将来柔道整復師として業務するあたりその知識が発揮できるように習得させていく。 【具体的な目標】 ①上肢外傷の概要が説明できる。 ②上肢外傷の内容の理解がさらに深められ習得できるようにする。							
授業計画・内容							
1回目	手・指部の解剖と機能について説明できる						
2回目	手・指部の解剖と機能について説明できる						
3回目	中手骨骨頭骨折・中手骨頸部骨折・中手骨骨幹部骨折について説明できる						
4回目	中手骨骨幹部骨折・ベネット骨折について説明できる						
5回目	ローランド骨折・第5中手骨基部骨折について説明できる						
6回目	基節骨骨折について説明できる						
7回目	中節骨骨折について説明できる						
8回目	末節骨骨折・マレットフィンガーについて説明できる						
9回目	遠位橈尺関節脱臼・橈骨手根関節脱臼について説明できる						
10回目	月状骨脱臼・月状骨周囲脱臼について説明できる						
11回目	手根中手関節脱臼・MP関節脱臼について説明できる						
12回目	PIP関節脱臼・DIP関節脱臼について説明できる						
13回目	総復習し、2学期講義の総括について説明できる						
14回目	総復習し、2学期講義の総括について説明できる						
15回目	総復習し、2学期講義の総括について説明できる						
準備学習 時間外学習	【予習】 事前に教科書を熟読し、わからない単語を調べておく。 【復習】 配布した復習問題や配布資料の内容をまとめ理解を深める。						
評価方法	1. 定期試験100% 2. 小テスト% 3. レポート% 4. 課題成果% 5. 授業態度%	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格					
受講生への メッセージ	柔道整復学は国家試験の中で最も出題数が多い科目で、臨床現場でも最も重要な科目となります。この科目が疎かになると今後の勉強等が大変困難となると思いますので、大変だと思いますがしっかり勉強していきましょう。						
【使用教科書・教材・参考書】 教科書：柔道整復学理論編改訂第7版（南江堂）、柔道整復学実技編第2版（南江堂） 配布資料							

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス							
科目名 (英)	臨床柔道整復学Ⅰ (Clinical Judo Therapy Ⅰ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	山口智一
学科	柔道整復科	授業 形態	講義	総時間	90	開講区分	3学期
コース	Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(6)	曜日・時限	月・土 1・4限
【授業の学習内容】 柔道整復師が実際に触れる上肢外傷を理論的に学び、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わる者として高度の医学的知識の習得が必要であることから、業務として扱う上肢外傷について理論を理解し、本講義修了時には各上肢外傷について説明ができるようになる。 ※実務経験 7年以上専門学校の教育現場に従事し、また接骨院の施術にも従事していた。							
【到達目標】 柔道整復学で重要な上肢外傷の基本的な知識を修得するとともに、国家試験に必要な知識または臨床現場でも必要な知識を講義内に入れ、将来柔道整復師として業務するあたりその知識が発揮できるように習得させていく。 【具体的な目標】 ①上肢外傷の概要が説明できる。 ②上肢外傷の内容の理解がさらに深められ習得できるようにする。							
授業計画・内容							
1回目	上肢の神経の解剖と機能を説明できる						
2回目	上肢の神経の解剖と機能を説明できる						
3回目	肩甲上神経絞扼障害・腋窩神経絞扼障害・橈骨神経損傷・尺骨神経損傷について説明できる						
4回目	肘側副靭帯損傷・肘関節後外側回旋不安定症・野球肘を説明できる						
5回目	テニス肘・パンナー病・変形性肘関節症について説明できる						
6回目	前腕コンパートメント症候群・腱交叉症候群について説明できる						
7回目	正中神経損傷・橈骨神経損傷・尺骨神経損傷について説明できる						
8回目	TFCC損傷・ドケルバン病について説明できる						
9回目	手根管症候群・ギヨン管症候群・キーンベック病・マーデルング変形について説明できる						
10回目	MP関節側副靭帯損傷・PIP関節側副靭帯損傷について説明できる						
11回目	ロッキングフィンガー、ばね指について説明できる						
12回目	デュピイトラン拘縮、ヘバーデン結節、ボタン穴変形、スワンネック変形について説明できる						
13回目	総復習し、3学期講義の総括について説明できる						
14回目	総復習し、3学期講義の総括について説明できる						
15回目	総復習し、3学期講義の総括について説明できる						
準備学習 時間外学習	【予習】 事前に教科書を熟読し、わからない単語を調べておく。 【復習】 配布した復習問題や配布資料の内容をまとめ理解を深める。						
評価方法	1. 定期試験100% 2. 小テスト% 3. レポート% 4. 課題成果% 5. 授業態度%	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格					
受講生への メッセージ	柔道整復学は国家試験の中で最も出題数が多い科目で、臨床現場でも最も重要な科目となります。この科目が疎かになると今後の勉強等が大変困難となると思いますので、大変だとは思いますがしっかり勉強していきましょう。						
【使用教科書・教材・参考書】 教科書：柔道整復学理論編改訂第7版（南江堂）、柔道整復学実技編第2版（南江堂） 配布資料							

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス							
科目名 (英)	臨床柔道整復学Ⅱ (Clinical Judo Therapy Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	山口 智一
学科	柔道整復科	授業 形態	講義	総時間	30	開講区分	Ⅰ学期
コース	Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(2)	曜日・時限	月・土曜日 2・4限
【授業の学習内容】							
柔道整復師が実際に触れる頭部・体幹外傷を理論的に学び、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わる者として高度の医学的知識の習得が必要であることから、業務として扱う頭部・体幹外傷について理論を理解し、本講義修了時には各頭部・体幹外傷について説明ができるようになる。 ※実務経験 7年以上専門学校の教育現場に従事し、また接骨院の施術にも従事していた。							
【到達目標】							
柔道整復学で重要な頭部・体幹外傷の基本的な知識を修得するとともに、国家試験に必要な知識または臨床現場でも必要な知識を講義内に入れ、将来柔道整復師として業務するあたりその知識が発揮できるように習得させていく。							
【具体的な目標】							
①頭部・体幹外傷の概要が説明できる。 ②頭部・体幹外傷の内容の理解がさらに深められ習得できるようにする。							
授業計画・内容							
Ⅰ回目	頭部・顔面の機能解剖、頭部・顔面部の骨折を説明できる						
2回目	頭部・顔面部の骨折を説明できる						
3回目	顎関節脱臼を説明できる						
4回目	頭部・顔面部の軟部組織損傷を説明できる						
5回目	頸椎の機能解剖、頸椎の骨折を説明できる						
6回目	頸椎脱臼・頸椎の軟部組織損傷を説明できる						
7回目	頸椎の軟部組織損傷を説明できる						
8回目	胸・背部の機能解剖、胸部の骨折を説明できる						
9回目	胸椎の骨折・脱臼を説明できる						
Ⅹ0回目	胸・背部の軟部組織損傷を説明できる						
Ⅺ回目	腰部・仙骨部の機能解剖、腰椎の骨折・脱臼を説明できる						
Ⅹ2回目	腰部の軟部組織損傷を説明できる						
Ⅹ3回目	腰部の軟部組織損傷を説明できる						
Ⅹ4回目	総復習し、Ⅰ学期講義の総括について説明できる。						
Ⅹ5回目	総復習し、Ⅰ学期講義の総括について前回より詳しく説明できる。						
準備学習 時間外学習	【予習】 事前に教科書を熟読し、わからない単語を調べておく。 【復習】 配布した復習問題や配布資料の内容をまとめ理解を深める。						
評価方法	1. 定期試験Ⅹ00% 2. 小テスト0% 3. レポート0% 4. 課題成果0% 5. 実地試験0%		評価方法はGPA制度となります Ⅹ00～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格				
受講生への メッセージ	柔道整復学は国家試験の中で最も出題数が多い科目で、臨床現場でも最も重要な科目となります。この科目が疎かになると今後の勉強等が大変困難となると思いますので、大変だと思いますがしっかりと勉強していきましょう。						
【使用教科書・教材・参考書】							
教科書：柔道整復学理論編第7版（南江堂）、柔道整復学実技編第2版（南江堂） 配布資料							

名古屋医健スポーツ専門学校 2019年度 シラバス

科目名 (英)	物理療法の取り扱い ()	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	坂口 聡
学科	柔道整復科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 1	開講区分	2学期
コース	I 部・II 部コース					曜日・時限	火曜 1・4時限目(予定)

【授業の学習内容】

2・3年生に行われる臨床実習に対応できるように物理療法における患者対応や説明の仕方を習得する。なお、さまざまケースを想定し、物理療法機器の取り扱い方法を実践にて習得する。
 なお、物理療機器を狙った部位に正確にセットできるようにするために体表解剖を習得する。
 ※平成22年4月～平成26年3月まで整形外科医院・接骨院で勤務(主業務:疾患や外傷に対する後療法)
 ※平成25年10月に柔道整復師専科教員免許を取得

【到達目標】

これから始める臨床実習に困らないように、最低限の基本的な物理療機器の取扱いとその効果を説明できるように習得する。
 目標① 患者に物理療法の効果と禁忌の説明ができる。
 目標② 各物理療機器の操作方法の説明ができる。
 目標③ 臨床実習前の患者対応を身につけることができる。

授業計画・内容

1回目	各物理療法の概要を説明できる。【温熱療法】①概要・効果・禁忌事項・使用法を理解し説明できる。
2回目	【温熱療法】②概要・効果・禁忌事項・使用法を理解し説明できる。
3回目	【温熱療法】③【寒冷療法】①概要・効果・禁忌事項・使用法を理解し説明できる。
4回目	【寒冷療法】②概要・効果・禁忌事項・使用法を理解し説明できる。
5回目	【光線・牽引・間欠的圧迫療法】①概要・効果・禁忌事項・使用法を理解し説明できる。
6回目	【電気療法】①概要・効果・禁忌事項・使用法を理解し説明できる。
7回目	実際の損傷を想定して、患者対応や物療機器の取扱いの対応の説明ができる。
8回目	物理療機器の取扱いの実習に向けての患者対応の仕方を理解説明できる。
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	

準備学習 時間外学習	(目標①) 前提:この授業を受けるには、1年次に学習した物理療法の基礎知識が最低限必要です。 (目標②) 講義の中で取ったメモをしっかりとノートにまとめ復習は必要です。 (目標③) 体表解剖は解剖学の筋の起始停止、作用、走行の知識の復習が必要です。
---------------	--

評価方法	1. 定期試験(%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	外部臨床実習で対応できるように実地試験を実施。 ●実地試験100%
------	--	--	--------------------------------------

受講生へのメッセージ
 1年次に学習した物理療法の知識を実際にどのように活用するのか、また、実際に機器の使い方、仕様は学習していないので、欠席しないでください。臨床実習も見据えて講義にしますので、必ずバインダー等を持参しメモを取り復習しながらまとめるようにしてください。講義時間内だけでは機器取扱いをマスターするのは難しいので補講も考えています。追って連絡します。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:柔道整復学・理論編改訂第6版.南江堂、配布授業プリント

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	柔道整復実技Ⅰ (Clinical PracticeⅠ)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	奥村 祐汰
学科	柔道整復科	授業形態	講義・演習	総時間	45	開講区分	Ⅰ学期
コース	Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(Ⅰ)	曜日・時限	水曜日 2・3限

【授業の学習内容】

認定実技審査範囲の外傷・障害について学習する。

各外傷の模擬検査を行うにあたり、臨床に即した手順を踏んで模擬整復を行う。1、来院肢位の確認 2、発生機序の聴取 3、患部の確認 4、合併損傷の有無の確認 5、検査を実施 6、検査結果の評価 7、合併損傷の再確認授業ではそれぞれの外傷部位の局所解剖を確認し、どのような外力がどのように影響して、どのような外傷が発症するのかを考えながら模擬整復を行う。授業で行うのは模擬整復であるが、できる限り本物の外傷を扱っていることを考え、イメージしながら行うことが重要である。

※実務経験

2014年～2020年まで接骨院と整形外科で勤務。(主業務は骨折・脱臼などの応急処置と後療法)

承造救済車科教員免許取得教員

【到達目標】

- ・外傷部位の局所解剖を理解する。
- ・模擬整復終了までの手順を理解する。
- ・患部の確認では正確な触診ができるようになる。
- ・超音波エコーを用いて正確な評価ができるようになる。
- ・模擬整復を行う際、患者への説明、助手への指示を行いながら整復操作に説明を加えながら整復出来るようになる。

授業計画・内容

[illegible]

準備学習 時間外学習	実技授業でにクラスメイトと模擬整復操作練習が出来るように、各外傷部位の局所解剖、整復理論をしっかり復習すること。(局所解剖や整復理論を文字で理解することも大切であるが、実技授業では立体的視覚的に把握することが重要である。局所解剖や整復操作を描写するなどしてイメージ化する努力をする。)
---------------	--

評価方法	実地試験(100%) 出席・欠席数・授業態度を加味して評価する	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格
------	------------------------------------	--

受講生へのメッセージ	実技の授業は局所解剖を理解し、理論を理解して初めてできるものである。基礎知識、理論の理解なしで実技を行うことは、一つのやり方をまるまる暗記することに過ぎない。各外傷の種々なケースにも対応していくためには局所解剖、柔整理論を理解し考えながら実技を行う必要がある。 常に本物の外傷を扱っているイメージで実技授業に臨んでもらいたい。
------------	---

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：柔道整復理論、柔道整復実技及び配布資料

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	柔道整復実技Ⅰ (Clinical PracticeⅠ)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	奥村 祐汰
学科	柔道整復科	授業形態	講義・演習	総時間	45	開講区分	2学期
コース	Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(Ⅰ)	曜日・時限	水曜日 2・3限

【授業の学習内容】

認定実技審査範囲の外傷・障害について学習する。

各外傷の模擬検査を行うにあたり、臨地に即した手順を踏んで模擬整備を行う。1、来院肢位の確認 2、発生機序の聴取 3、患部の確認 4、合併損傷の有無の確認 5、検査を実施 6、検査結果の評価 7、合併損傷の再確認授業ではそれぞれの外傷部位の局所解剖を確認し、どのような外力がどのように影響して、どのような外傷が発症するのかを考えながら模擬整備を行う。授業で行うのは模擬整備であるが、できる限り本物の外傷を扱っていることを考え、イメージしながら行うことが重要である。

※実務経験

2014年～2020年まで接骨院と整形外科で勤務。(主業務は骨折・脱臼などの応急処置と後療法)

矛盾救復吏科教冒色詐取得教冒

【到達目標】

- ・外傷部位の局所解剖を理解する。
- ・模擬整復終了までの手順を理解する。
- ・患部の確認では正確な触診ができるようになる。
- ・超音波エコーを用いて正確な評価ができるようになる。
- ・模擬整復を行う際、患者への説明、助手への指示を行いながら整復操作に説明を加えながら整復出来るようになる。

授業計画・内容

1回目	肘内障 - 肘内障について理解し、診察の流れや診察が出来るようになる。
2回目	肘内障 - 肘内障の診察の流れ、診察、整復操作について理解して出来るようになる。①
3回目	肘内障 - 肘内障の診察の流れ、診察、整復操作について理解して出来るようになる。②
4回目	肘内障の診察及び整復についてグループディスカッションをして理解を深める。
5回目	コーレス骨折 - 橈骨遠位端部の局所解剖、機能解剖を理解し、コーレス骨折について理解することが出来るようになる。①
6回目	コーレス骨折 - コーレス骨折の診察、触診について理解して整復操作が出来るようになる。①
7回目	コーレス骨折 - コーレス骨折の診察、触診について理解して整復操作が出来るようになる。②
8回目	コーレス骨折の診察及び整復についてグループディスカッションをして理解を深める。
9回目	腱板損傷 - 腱板付近の局所解剖、機能解剖を理解し、腱板損傷について理解することが出来るようになる。
10回目	腱板損傷 - 腱板損傷の診察の流れ、診察、検査法について理解して出来るようになる。①
11回目	腱板損傷 - 腱板損傷の診察の流れ、診察、検査法について理解して出来るようになる。②
12回目	腱板損傷の診察及び検査についてグループディスカッションをして理解を深める。
13回目	試験範囲を総合的に復習し、診察の流れ、診察、検査法について理解して出来るようになる。
14回目	学期末試験①
15回目	学期末試験②と解説
準備学習 時間外学習	実技授業でにクラスメイトと模擬整復操作練習が出来るように、各外傷部位の局所解剖、整復理論をしっかり復習すること。 (局所解剖や整復理論を文字で理解することも大切であるが、実技授業では立体的視覚的に把握することが重要である。局所解剖や整復操作を描写するなどしてイメージ化する努力をする。)
評価方法	実地試験(100%) 出席・欠席数・授業態度を加味して評価する 評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格
受講生への メッセージ	実技の授業は局所解剖を理解し、理論を理解して初めてできるものである。基礎知識、理論の理解なしで実技を行うことは、一つのやり方をまるまる暗記することに過ぎない。各外傷の種々なケースにも対応していくためには局所解剖、柔整理論を理解し考えながら実技を行う必要がある。常に本物の外傷を扱っているイメージで実技授業に臨んでもらいたい。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：柔道整復理論、柔道整復実技及び配布資料

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス							
科目名 (英)	柔道整復実技Ⅱ (Judo Therapy Practical Ⅱ)		必修選択	必修	年次	2	担当教員 米女 博司 森 一浩
学科	柔道整復科		授業形態	実技	総時間	90	開講区分 Ⅰ学期
コース	昼間Ⅰ部・Ⅱ部				(単位)	(3)	曜日・時限
【授業の学習内容】							
認定実技審査範囲の外傷・障害について学習する。 各外傷の理論の復習後、固定法の実技を習得する。臨床に即した手順を踏んで模擬固定を行う。授業ではそれぞれの外傷・損傷部位の局所解剖を確認し、どのような外力がどのように影響して、どのような外傷が発症するのかを考える。外傷の整復・検査を行なったことをイメージし、患部の整復位保持と再転位の防止、患部の安静保持、良好な治癒環境の確保と変形の防止・矯正などを考えながら固定が出来るように実習する。授業では模擬固定であるが、できる限り本物の外傷を扱っていることをイメージしながら行うことが重要である。繰り返し練習することで固定技術をより詳細に行うことが出来るように努力する。 1. 骨折・脱臼・軟部組織損傷の固定を固定材料の準備、固定肢位、固定期間を説明して患部の固定を行う。 2. 固定法:認定実技項目に沿った外傷の固定手順を患者、助手に指示を行いながら口頭で説明を加え、患部の固定を行う。							
※実務経験 (米女 博司)1987年～1994年日本柔道整復専門学校附属接骨院 新ゆり整形外科非常勤で勤務 柔道整復専科教員免許取得教員 (森 一浩)2012年～2022年接骨院で勤務 柔道整復専科教員免許取得教員							
【到達目標】							
・必要な固定材料を選択できる。 ・骨折・脱臼・軟部組織損傷患部の適切な固定肢位、固定期間を説明できる。 ・患者・助手への適切な指示を行いながら固定することが出来る。 ・固定の手順を説明することが出来る。 ・固定の目的を達成することが出来る。 ・試験問題になった際に順応できる							
授業計画・内容							
1回目	固定の概説について理解し説明することが出来る。鎖骨骨折の固定を行い、その手順を説明することが出来る。①						
2回目	鎖骨骨折の固定を行い、その手順を説明することが出来る。②						
3回目	鎖骨骨折の固定を行い、その手順を説明することが出来る。③						
4回目	肩鎖関節脱臼の固定を行い、その手順を説明することが出来る。①						
5回目	肩鎖関節脱臼の固定を行い、その手順を説明することが出来る。②						
6回目	上腕骨骨幹部骨折の固定を行い、その手順を説明することが出来る。①						
7回目	上腕骨骨幹部骨折の固定を行い、その手順を説明することが出来る。②						
8回目	上腕骨骨幹部骨折の固定を行い、その手順を説明することが出来る。③						
9回目	コーレス骨折の固定を行い、その手順を説明することが出来る。①						
10回目	コーレス骨折の固定を行い、その手順を説明することが出来る。②						
11回目	コーレス骨折の固定を行い、その手順を説明することが出来る。③						
12回目	総復習 鎖骨骨折・肩鎖関節脱臼・上腕骨骨幹部骨折・コーレス骨折の固定とその手順の説明を理解し固定することが出来る。						
13回目	実技試験						
14回目	実技試験						
15回目	実技試験後の解説						
準備学習 時間外学習	各外傷の整復実技の内容を復習し、再度局所解剖や理論を理解する。 授業中に積極的に実技の練習を行うことが出来るように準備する。時間外の実技の復習が必要。						
評価方法	1. 定期試験 (50%) 2. 小テスト (50%) 3. レポート (%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	実技試験100%(平常点も加味する)				
受講生への メッセージ	実技の授業は局所解剖を理解し、理論を理解して初めて出来るものである。基礎知識、理論の理解なしで実技を行うことは、一つのやり方をまるまる暗記することに過ぎない。各外傷の種々なケースにも対応していくためには局所解剖、柔整理論を理解し考えながら実技を行う必要がある。常に本物の外傷を扱っているイメージで実技授業に臨んでもらいたい。						
【使用教科書・教材・参考書】							
教科書:柔道整復学理論編、柔道整復学実技編							
実技バック(巻軸綿包帯(ライン帯)、腋窩枕子、テーピングなど)							

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス							
科目名 (英)	柔道整復実技Ⅱ (Judo Therapy Practical Ⅱ)		必修選択	必修	年次	2	担当教員 米女 博司 森 一浩
学科	柔道整復科		授業形態	実技	総時間	90	開講区分 3学期
コース	昼間Ⅰ部・Ⅱ部				(単位)	(3)	曜日・時限
【授業の学習内容】							
認定実技審査範囲の外傷・障害について学習する。 各外傷の理論の復習後、固定法の実技を習得する。臨床に即した手順を踏んで模擬固定を行う。授業ではそれぞれの外傷・損傷部位の局所解剖を確認し、どのような外力がどのように影響して、どのような外傷が発症するのかを考える。外傷の整復・検査を行なったことをイメージし、患部の整復位保持と再転位の防止、患部の安静保持、良好な治癒環境の確保と変形の防止・矯正などを考えながら固定が出来るように実習する。授業では模擬固定であるが、できる限り本物の外傷を扱っていることをイメージしながら行うことが重要である。繰り返し練習することで固定技術をより詳細に行うことが出来るように努力する。 1. 骨折・脱臼・軟部組織損傷の固定を固定材料の準備、固定肢位、固定期間を説明して患部の固定を行う。 2. 固定法:認定実技項目に沿った外傷の固定手順を患者、助手に指示を行いながら口頭で説明を加え、患部の固定を行う。							
※実務経験 (米女 博司)1987年～1994年日本柔道整復専門学校附属接骨院 新ゆり整形外科非常勤で勤務 柔道整復専科教員免許取得教員 (森 一浩)2012年～2022年接骨院で勤務 柔道整復専科教員免許取得教員							
【到達目標】							
・必要な固定材料を選択できる。 ・骨折・脱臼・軟部組織損傷患部の適切な固定肢位、固定期間を説明できる。 ・患者・助手への適切な指示を行いながら固定することが出来る。 ・固定の手順を説明することが出来る。 ・固定の目的を達成することが出来る。 ・試験問題になった際に順応できる							
授業計画・内容							
1回目	下腿骨幹部骨折の固定を行い、その手順を説明することが出来る。①						
2回目	下腿骨幹部骨折の固定を行い、その手順を説明することが出来る。②						
3回目	下腿骨幹部骨折の固定を行い、その手順を説明することが出来る。③						
4回目	肋骨骨折の固定を行い、その手順を説明することが出来る。①						
5回目	肋骨骨折の固定を行い、その手順を説明することが出来る。②						
6回目	肋骨骨折の固定を行い、その手順を説明することが出来る。③						
7回目	復習① 鎖骨骨折・肩鎖関節脱臼の固定の復習を行い、固定とその手順の説明をすることが出来るか再確認する。						
8回目	復習② 上腕骨骨幹部骨折・コーレス骨折の固定の復習を行い、固定とその手順の説明をすることが出来るか再確認する。						
9回目	復習③ 肩関節脱臼・肘関節脱臼の固定の復習を行い、固定とその手順の説明をすることが出来るか再確認する。						
10回目	復習④ 第5中手骨頸部骨折・第2指PIP脱臼の固定の復習を行い、固定とその手順の説明をすることが出来るか再確認する。						
11回目	復習⑤ 下腿骨幹部骨折・肋骨骨折の固定の復習を行い、固定とその手順の説明をすることが出来るか再確認する。						
12回目	本年度行った固定の総復習を行い、固定とその手順の説明をすることが出来るか再確認する。						
13回目	実技試験						
14回目	実技試験						
15回目	実技試験後の解説						
準備学習 時間外学習	各外傷の整復実技の内容を復習し、再度局所解剖や理論を理解する。 授業中に積極的に実技の練習を行うことが出来るように準備する。時間外の実技の復習が必要。						
評価方法	1. 定期試験 (50%) 2. 小テスト (50%) 3. レポート (%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	実技試験100%(平常点も加味する)				
受講生への メッセージ	実技の授業は局所解剖を理解し、理論を理解して初めて出来るものである。基礎知識、理論の理解なしで実技を行うことは、一つのやり方をまるまる暗記することに過ぎない。各外傷の種々なケースにも対応していくためには局所解剖、柔整理論を理解し考えながら実技を行う必要がある。常に本物の外傷を扱っているイメージで実技授業に臨んでもらいたい。						
【使用教科書・教材・参考書】							
教科書:柔道整復学理論編、柔道整復学実技編							
実技バック(巻軸綿包帯(ライン帯)、腋窩枕子、テーピングなど)							

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス							
科目名 (英)	高齢者・競技者の外傷予防 (Trauma Prevention Technology for Elderly and Athletes)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	川村 一之
学科	柔道整復科	授業 形態	講義	総時間	30	開講区分	2学期
コース	I 部・II 部			(単位)	(2)	曜日・時限	火・水・木・金・土曜日 1,4限
【授業の学習内容】 現代では超高齢化社会となり、高齢者の健康意識が高くなってきたため高齢者の外傷予防を学んでいく。 臨床に出てから競技者をサポートする上で必要な知識・技術を修得すること目的に学習していく。 ※実務経験 2006年柔道整復師免許取得、2011年柔道整復師専科教員免許取得、2006年～2014年まで福岡医健付属 慶生整骨院勤務、2014年～2024年仙台医健付属整骨院勤務							
【到達目標】 高齢者から競技者の外傷予防についての基礎知識、具体的な方法、技術を修得し実践することができる事を目 標とする。その為にはスポーツによってどのような外傷が起こるのかを知り、外傷を防ぐための正しいトレーニング・ コンディショニングが出来るよう、他者に説明できるようにする。また高齢者の外傷を予防するために必要な知識 を学び、機能訓練指導員の業務内容も理解する。 目標 ①競技者や高齢者の外傷・予防についての基礎知識を理解し、説明ができる。 ②ロコモティブシンドロームについて理解、説明ができる。 ③種目別の外傷予防について理解し、説明ができる。 ④機能訓練指導員の業務内容やについて理解し、説明できる。							
授業計画・内容							
1回目	高齢者・競技者の外傷予防についてのプレゼンテーション 説明、準備						
2回目	高齢者・競技者の外傷予防についてのプレゼンテーション 中間報告						
3回目	高齢者・競技者の外傷予防についてのプレゼンテーション 学内発表						
4回目	機能訓練指導員の説明、ロコモティブシンドロームについて理解、説明できる。						
5回目	高齢者の外傷予防の知識について理解、説明できる。						
6回目	高齢者の外傷予防訓練の手順について理解、説明できる。						
7回目	高齢者の外傷予防訓練について理解、説明できる。						
8回目	競技者の外傷予防の概要について理解、説明できる。						
9回目	競技者の外傷予防の実際について理解、説明できる。						
10回目	種目別外傷予防の実際 について理解、説明できる。						
11回目	成長期の外傷予防について理解、説明できる。						
12回目	試験						
13回目	解説						
14回目	高齢者・競技者の外傷予防についてのプレゼンテーションの実施						
15回目	高齢者・競技者の外傷予防についてのプレゼンテーションの実施						
準備学習 時間外学習	①教科書と授業資料をベースに授業を進行していきます。事前に教科書に一度目を通してください。 ②毎回出席できるように体調管理に努めて下さい。 ③毎日の復習を怠らないようにして下さい。						
評価方法	筆記試験(90%) 出席点(10%)			●出席も評価に含む			
受講生への メッセージ	スポーツ現場や介護現場などの臨床でも必要な知識がたくさんあります。卒業後を見据え、しっかり取り 組みましょう。						
【使用教科書・教材・参考書】 教科書：小林直行・高橋康輝著 高齢者競技者の外傷予防 医歯薬出版株式会社							

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス							
科目名 (英)	臨床実習Ⅰ (Clinical TrainingⅠ)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	米女 博司
学科	柔道整復科	授業形態	講義・演習	総時間	90	開講区分	2学期
コース	Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(2)	曜日・時限	各曜日 実習先による
【授業の学習内容】 学外実習を行います。 各々学生が配置された接骨院・施設に向き、臨床勤務している柔道整復師の指導に基づき、実際に接骨院・施設で提供されている施術を見て学ぶ。 実習期間は全90時間以上(12日×8時間)							
【到達目標】 ①医療従事者としての自覚を持ち、責任ある行動が出来る。 ②患者に対して適切な行動が出来る ③患者の抱える問題点に共感出来る。 ④他者の意見を聞くことが出来る。 ⑤自己の問題点、不足点を抽出し解決する方法を述べる事が出来る。							
授業計画・内容							
1時間目	臨床実習の到達目標に加えて下記の内容を実施する。 1 どのような施術をしているか理解し説明できる。 高齢者・成人・小児とあらゆる年代の患者の施術を見学し理解することができる。 2 臨床実習先での業務内容を理解し説明できる。 各施設の業務内容を理解し将来の柔道整復師像を想像することができる。 3 臨床実習先での柔道整復師の役割を理解し説明できる。 資格の違いを理解し、他業種との連携を取ることができる。 4 施術者が患者に対しどのような態度で接しているか理解し説明できる。 患者とのコミュニケーションの取り方を理解し説明できる。 5 初めて見る臨床現場に様々な気づきを感じ自分の学習目標を知ることができる。 臨床現場で感じたことを整理し今後の学習課題を見つけていくことができる。 6 施術前後の準備・片付け・掃除が率先してできる。 準備・片付け・清掃の習慣をつけることができる。 7 礼儀正しい挨拶ができる。 スタッフ、患者への挨拶が積極的にできる。 8 柔道整復施術所、医療機関とはどんなところが理解し説明できる。						
90時間目	臨床実習先の施設を理解し柔道整復師としての将来を考えることができる。						
準備学習 時間外学習	解剖学・生理学・運動学といった基礎科目を基に柔道整復理論や柔道整復学実技の知識の復習および評価や手技療法の復習を行っておくこと						
評価方法	1. 定期試験 (%) 2. 小テスト (%) 3. レポート (50%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (50%)	評価方法は同一制度により 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	レポート50%、課題成果50%				
受講生への メッセージ	実習施設は学校と契約を交わし、愛知県に登録された施設で行う。 何が必要で何を求められているのか、指示されて動くのではなく予測して判断すること。主体的に取り組むこと。						
【使用教科書・教材・参考書】 解剖学、生理学、運動学、柔道整復学(理論編)、柔道整復学(実技編) その他臨床に関する参考書							